様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２８ 日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１１８４４

研究課題名（和文）都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性

研究課題名（英文）The Structural Formation and Evolution of Planning Concepts for Walking Trail Projects in Suburban Areas and Their Potential for Utilization in an Era of Decline

研究代表者
岡村　祐（Okamura, Yu）

東京都立大学・都市環境科学研究科・准教授

研究者番号：６０５３５４３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、とくに都市近郊において優良な空間的ストックとしての散策路を創出・継承するための計画技術を探求し、事例調査や比較研究を通じて、ハード・ソフト両面にわたる環境やサービスの提供、そして運営に関する持続的な仕組みが求められる散策路事業の要点として、１）シーンを作り出すルートの選定、２）導入と持続のための情報発信・伝達の仕組みづくり、３）地域として豊かになるためのビジョンとプログラムの重要性を見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
今後、多くの都市が人口的、経済的に縮退してゆくなか、本研究が対象とした散策路とそれを軸とした自然環境の広がりは、特に都市近郊の魅力を向上するための重要な空間的ストックの1つとして再評価されるべきものであり、本研究では、事例研究や実践的プロジェクトを通じて、散策路を単に観光・レクリエーションや健康増進の場としてだけでなく、散策路を含む地域としての整備・開発・保全に資する計画の重要性や、その計画技術を提示した。

研究成果の概要（英文）：This study explored planning techniques for the creation and succession of walking trails as a good spatial stock in cities and their suburbs, and carried out case studies and comparative research. The study found that the key elements of walking trail projects, which require a sustainable mechanism for the provision of environment and services in terms of both hardware and software, as well as management, are 1) routes that create scenes, 2) the creation of information transmission and communication mechanisms for introduction and sustainability, and 3) a vision and programme to enrich the area as a region.

研究分野：都市計画

キーワード：散策路　トレイル　観光　レクリエーション　都市近郊　ストック　ビジョン

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

■ 散策路事業の成立構造

近年のまち歩きやウォーキングブームのなかで、都市近郊の至る所で散策路の整備・設定や、まち歩きイベントの開催（以後、「散策路事業」と総称）が行われている。歴史的には戦前期にハイキングブームや旅客獲得を目論む鉄道会社のもと、関東圏や近畿圏をはじめ大都市近郊において多くの散策路が整備された。時代は下り 80 年代から 90 年代には、地域環境の保全やまちづくりが重視されるなかで、自然・歴史資源を対象とした「散策路事業」 が実施され、これはゆとりや癒やしを求めるライフスタイルにも応えるものであった。

このように、「散策路事業」は、健康、レクリエーション、モビリティ等の発地側の市民のライフスタイルのなかから生み出されるプッシュ要因と、郊外・行楽地開発、地域の自然・文化資源の保全活用、コミュニティ形成等の着地側が期待する環境形成に資するプル要因とのマッチングによって成立すると捉えることができる。これは、今後の「散策路事業」を展望する上でも確かな理論的バックグラウンドとなるのではないだろうか。

■ 散策路事業における空間的ストックの創出と継承

運動習慣の取り入れによる健康増進の手段やレクリエーション行為としてのウォーキング（歩行運動）のための環境整備やプログラムの提供は、とりわけ近年、医学や運動生理学の見地から科学的に歩行運動の健康への効果検証が進み、全国各地でその動きが加速している。一方、散策路事業は日常的な散策行動を促すものだけではなく、観光という非日常的な楽しみの中で、健康増進や健康回復を目指したヘルスツーリズムやウェルネスツーリズムのプログラムを提供するものに、その幅が広がっている。

九州地方や宮城県で展開される韓国チェジュ島の散策路事業を技術移転した「オルレ」、上山市などでのドイツの気候性地形療法を再現した「クアオルト健康ウオーキング」など、国境を超えて、共通のプログラムが展開する動きもみられる。これら散策路事業の基盤となるものは、快適で安全な歩行環境、地域の自然環境と文化資源、あるいはそのネットワークという、都市やその周辺地域における空間的なストックに他ならない。散策路事業と都市ストックとの関係性を理解することにより、地域資源や地域環境の保全・整備という点においても散策路事業の存在価値を示せるのではないだろうか。

■ 都市縮退時代における都市近郊の持続可能性

都市縮退時代において、とくにニュータウンを含め都市近郊の住宅団地では、今後住み手を含めた関係人口の確保に取り組んでゆく必要がある。建築ストックや公共空間を更新するハード的な方法と合わせて、地域資源の魅力の発掘・発信といったソフト的な取り組みも重要である。新型コロナウイルスの流行を経て、「日常」を対象とした観光・レクリエーション需要や、健康志向の高まりを鑑みるに、「散策路事業」は、核となる歩行路や周辺環境の保全・整備というハード事業の側面と、都市近郊におけるライフスタイルの魅力発信や都市住民の誘客といったソフト事業の側面を併せ持ったものとして、持続的な地域形成手法として重要視されてくるのではないだろうか。

２．研究の目的

以上の背景を踏まえて、本研究は散策路事業の計画技術を探求することを目的に、具体的に以下３点の研究課題を設定する。

第一に、特定地域における散策路事業を対象に、事業の成立構造やその歴史的変遷を解明し、そのなかで都市の空間的ストックの創出・継承に対する知見を得る。

第二に、散策路事業の計画技術の特徴や都市及びその近郊におけるストックの創出・継承に与える影響を横断的、俯瞰的に把握するために、複数事例の比較研究を行う。

第三に、都市近郊における散策路事業が都市及びその近郊における空間的なストックの創出・継承にどのように貢献できるのか、実践的研究に取り組む。

３．研究の方法

本研究では事例研究・実践的研究を基本スタイルとし、そこで得られた知見にもとづき理論的枠組みの構築を行う。

研究目的１に対しては、以下の事例研究を行い、主に資料調査に基づき歴史的変遷や散策路事業としての特徴を分析考察する。

１）戦前期に東京鉄道局と東京市により東京圏で広く実施された散策路事業「市民健康路」
２）戦前期から現代まで各時代に東京都（東京市）により実施されてきた各散策路事業
３）戦前期に整備され、戦後期に人気を博した多摩丘陵における「野猿峠越えコース」
４）戦前期に整備され、その後も地域の緑地環境の保全・開発に影響を与えてきた飯能市天覧山周辺の散策路

※１）は，本科研費研究課題以前の研究成果を踏まえた再考察。

研究目的に２に対しては、「クアオルト健康ウオーキング」「フットパス」「オルレ」の３つ

の散策路授業を対象に研究を行う。

１）先進事例として、山形県上山市（クアオルト健康ウオーキング）、熊本県美里町（フットパス）、九州地域（オルレ）の散策路事業を取り上げ、各事業のキーパーソンを招聘したミニフォーラムを開催し、公開議論を実施（2023 年度日本造園学会全国大会）

２）我が国における散策路事業の計画技術の到達点を明確にするという視点で、海外事例との関係性も含め、「クアオルト健康ウオーキング」「フットパス」「オルレ」における散策路事業計画技術の比較研究

研究目的３に対しては、以下２つの実践的取り組みを行う。

１）流域全体としての地域ビジョンの構想を目指した神奈川県茅ヶ崎市「小出川フットパス」

２）多摩都市モノレール八王子ルート（モノはちルート）構想の普及を目的とした「歩いて発見 モノはちルートウォーキング」

４．研究成果

事例研究や比較研究を通じて、本研究の成果として、散策路事業が、都市及びその近郊における優良な空間的ストックの創出・継承に資するための計画技術の要点として、以下３点を結論として導き出した。

■ シーンを作り出すルート

ルートを設定する際は、散策路のテーマやストーリーに即した資源間のネットワークに十分に考慮すべきだが、単に点を繋ぐためだけに線を引くのではなく、ルート上の各区間・各地点でどのような空間体験が可能なのか、空間と歩き方をセットで考え、目的に沿った魅力的かつ効果的なシーンを創り出すという発想が重要である。また、散策路とその周辺の地域資源との連携は、散策のシーンを豊かなにするものである。その独自の魅力づくりのためには、地域側の主体的な関わりは欠かせない。

事例研究で取り上げた「野猿峠越えコース」では、地元野鳥料理店や鉄道会社が関わりながら、丘陵地の豊かな環境を生かした施設（動物園、都市公園、アミューズメントパーク等）も含めて、多様なアクティビティが提供されてきた。また、上山市「クアオルト健康ウオーキング」では、ドイツの「気候性地形療法」を取り入れたルートとして、歩行だけでなく、地形や植生や景観など空間に即した各種のプログラムが導入されることで、魅力的な散策のシーンが生まれている。

■ 導入と持続のための情報発信・伝達の仕組みづくり

散策路を維持管理し、継承してゆくには、都市住民や地域の人々のなかで、散策行為が習慣化されなければならない。そのためには、人々に散策路の存在やその魅力、また散策の効果を伝え、散策を始める（導入する）ためのきっかけづくりや、続けるためのしかけが必要である。これに対応するのが、ウェブサイトや拠点施設、あるいはイベント開催を通じた情報と体験の提供である。

個人としての継続性を維持するための情報として、距離、歩数、消費カロリー、METS 値などを示すことで、達成感や効果を可視化することが一般的になっている。東京都が近年健康増進目的で取り組んでいる「トーキョーウォーキングマップ」では、区市町村の既存の散策路事業の捉え直しと連携により、都内各所で「健康ウォーキング」が楽しむための一元的な情報提供を行うものである。また、上山市では、「クアオルトウオーキング３万人プロジェクト」のもとで、住民や観光客が気軽に参加できる多様なプログラムの提供が行われている。

■地域として豊かになるためのビジョンとプログラム

散策路事業では、散策路の整備そのものが目的ではなく、地域の健康増進や地域振興など、地域としての豊かな生活のビジョンと結びつくこと重要であり、そのビジョンの共有とプログラムとして具体化が事業の持続的な展開につながると考えられる。

上山市の「温泉クアオルト構想」は、健康保養地としての市民の健康増進と交流人口の拡大を目指したまちづくりの指針となっており、ウォーキングによる健康づくりから、地域医療、観光や農業など地域産業、教育、自然環境の保全などの分野への展開を構想している。観光としての散策を促進するためには、温浴、食事、買い物、宿泊といった他のアクティビティとの組み合わせにより満足度を高めるためのプログラムが必要である。上山市では、温泉旅館の宿泊者に「早朝ウォーキング」が紹介されており、温泉地滞在の健康効果を高めるだけでなく、地元との交流の機会ともなっている。

このように、散策路事業と地域の資源や産業との組み合わせが、地域の発展に寄与するといったストーリーも描ける一方で、東京都における散策路事業の変遷と「野猿峠越えコース」の事例が示唆するように、事業としての散策路は、社会的背景や政策的位置づけに大きく影響を受けるものである。したがって、「歩き方」だけを追い求めるのではなく、多様な「歩き方」を包摂する空間としての散策路が存在することが重要となる。多様な「歩き方」を包摂する空間とは、冒頭に挙げた地域の自然環境と文化資源、快適で安全な歩行環境によるネットワークという空間・環境的なストックによるものである。

現在の散策路事業は、これを利用するという側面では多様なノウハウが蓄積されているが、地域としてのストックの維持や創出に結びつきにくい状況も見える。散策路を含む地域が、散策路を維持管理し、継承するに足りる価値を見出している必要があり、イギリスのフットパスが「生活の知恵や自由への思想によって構築されてきたもの」と評されるように、生活のなかに文化として歩くことを根付かせていくことが重要であると考える。

５．研究業績

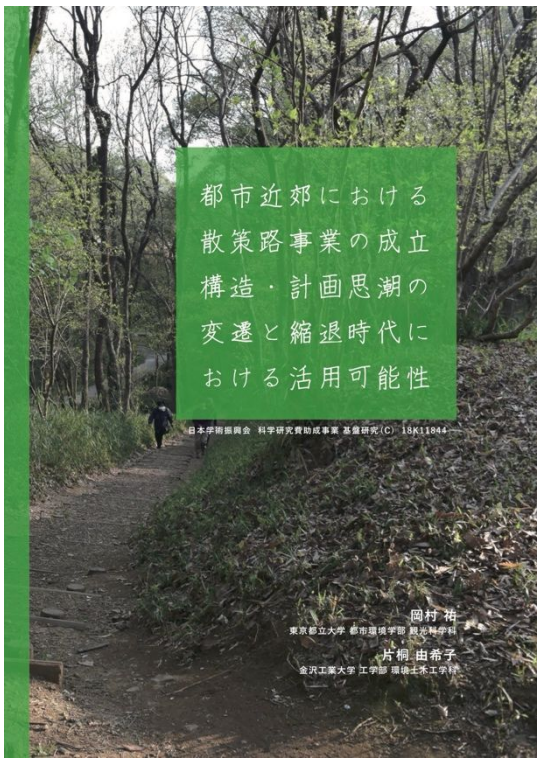
■ 論文／口頭発表

・ 岡村祐・片桐由希子（2019）：散策路事業における都市ストックの創出と継承の視点（特集：健康な都市に向けたランドスケープデザイン），ランドスケープ研究，83(3)，pp.288-291
・ Okamura Y. and Katagiri Y.(2019): Why and How have Walking-Trail Booms Occurred – On the Yaen Mountain Pass Route in the Tama Hills, Tokyo–: 4th International Conference on “CHANGING CITIES: Spatial, Design, Landscape & Socio-economic Dimensions”, Chania, Crete Island, Greece, 24-29 June 2019
・ 片桐由希子・岡村祐（2020）：ニュータウンにおける商業施設を起点とした「暮らし体験型散策路」の提案　―犬連れの来訪客を中心として，造園学会 2020 年度全国大会ポスター発表，オンライン，2020 年 5 月
・ 岡村祐・片桐由希子（2022）：埼玉県飯能市天覧山周辺の散策路と周辺地域の整備・開発・保全に関する一考察，ランドスケープ研究，85（5），pp.619-624
・ 岡村祐・片桐由希子（2023）：海外規範事例と国内展開組織の関係性からみた散策路事業の計画技術移転の特徴，ランドスケープ研究(オンライン論文集)，16 ，pp.133-140

■ 刊行物（マップ等）

・ 暮らし体験型散策路の計画提案「南大沢でワンちゃんとピクニックしよう！」：首都大学東京観光科学教室「暮らし体験型散策路」プロジェクトチーム（制作・発行），2020 年 3 月
・ 冊子「小出川フットパス」：アーバンデザインセンター・茅ヶ崎（発行）・小出川に親しむ会・東京都立大学観光科学科岡村研究室（協力），2022 年 3 月
・ 歩いて発見 モノはちルートウォーキング：多摩都市モノレール八王子ルート整備促進協議会（発行）・東京都立大学観光科学科岡村研究室（制作），2023 年 11 月

本科研費研究課題の研究成果の詳細は、別途報告書冊子として公開



岡村祐・片桐由希子（2024）：都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性，科学研究費助成事業報告書＜https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/records/2000361＞，東京都立大学機関レポジトリみやこ鳥で公開

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 岡村祐・片桐由希子	４．巻 16
２．論文標題 海外規範事例と国内展開組織の関係性からみた散策路事業の計画技術移転の特徴	５．発行年 2023年
３．雑誌名 ランドスケープ研究(オンライン論文集)	６．最初と最後の頁 133-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jilaonline.16.133	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岡村 祐・片桐 由希子	４．巻 85(5)
２．論文標題 埼玉県飯能市天覧山周辺の散策路と周辺地域の整備・開発・保全に関する一考察	５．発行年 2022年
３．雑誌名 ランドスケープ研究	６．最初と最後の頁 619-624
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.85.619	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岡村祐,片桐由希子	４．巻 83
２．論文標題 散策路事業における都市ストックの創出と継承の視点散策路事業における都市ストックの創出と継承の視点	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ランドスケープ研究	６．最初と最後の頁 288-291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 岡村祐・片桐由希子
２．発表標題 埼玉県飯能市天覧山周辺の散策路と周辺地域の整備・開発・保全に関する一考察
３．学会等名 日本造園学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 片桐由希子・岡村祐
２．発表標題 ニュータウンにおける商業施設を起点とした「暮らし体験型散策路」の提案　―犬連れの来訪客を中心として
３．学会等名 日本造園学会2020年度全国大会ポスター発表
４．発表年 2020年

１．発表者名 Okamura Y. and Katagiri Y.
２．発表標題 Why and How have Walking-Trail Booms Occurred ―On the Yaen Mountain Pass Route in the Tama Hills, Tokyo―
３．学会等名 4th International Conference on “CHANGING CITIES: Spatial, Design, Landscape & Socio-economic Dimensions”（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

・都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性，科学研究費助成事業報告書，https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/records/2000361
・暮らし体験型散策路の計画提案「南大沢でワンちゃんとピクニックしよう！」：首都大学東京観光科学教室「暮らし体験型散策路」プロジェクトチーム（制作・発行），2020年3月，https://mitsui-shopping-park.com/mop/tama/special/pet/osanpo.html
・冊子「小出川フットパス」：アーバンデザインセンター・茅ヶ崎（発行）・小出川に親しむ会・東京都立大学観光科学科岡村研究室（協力），2022年3月，https://sites.google.com/view/udcc/top/koidegawa_footpath
・歩いて発見 モノはちルートウォーキング：多摩都市モノレール八王子ルート整備促進協議会（発行）・東京都立大学観光科学科岡村研究室（制作），2023年11月

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	片桐　由希子 (Kagagiri Yukiko) (50508190)	金沢工業大学・工学部・准教授 (33302)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関